

# 和裁



## 和裁のお仕事 Q&A

～日本伝統の技” 運針” を継承する～



Q 和裁とは、いつごろ生まれたのでしょうか？

和服の裁ち縫い（お針、仕立て、裁縫）に於いて、今日のように繊細な縫い方が行われるようになったのは、小袖が定着した江戸初期頃といわれています。  
大正時代には、洋裁専門学校ができたため区別されるようになったが、ほとんど手縫いで行われる運針（裁縫での針の運び方。特に、手縫の基本で、裏表同じ縫い目を縫う手法）から始まる裁縫は、かつて女子の必修とされていた。  
この名残から、現在でも朝礼の前に1mの白布に赤い糸をひたすら通し、一日の始まりを心静かに迎える「5分間座禅」ともいえる行いは、集中力を養う心の鍛錬として、行っている学校もあります。

A



Q 和裁は、どんな所で、どのような仕事を行っていますか？

基本的には、職業和裁士が開いている会社内での仕事が主になります。反物などを1枚の和服に仕立てたり、着用の不備な部分を直す仕事を行っています。

A



Q 和裁には、どのような人が向いていますか？

高級な反物などを扱うため繊細な方で、特に女性が活躍している職業です。その他、ある程度縫うことができれば、在宅でできますので、時間が自由にあり、子育てしながらも可能です。

A





Q

和裁の現状と将来性について聞かせてください！！

現在、和裁士の高齢化・若年労働者の減少が深刻化しております。和服を普段着にする時代は、終わっておりますが、現在の日本でも、四季折々の行事や節目（正月、節句、挙式）などできる風習や日本舞踊、茶道、歌舞伎、芸好などに関わる人たちは、毎日着用しており、最近では、若年者の中にも浴衣を好む方々が多くなりつつあります。日本人の細かな技は、伝統技能として継承され、後継伝えていかなければならないと危機を募らしております。和服は、日本が誇る民族衣装で、その優美は海外でも非常に高い評価を受けており、世界一の伝統衣装です。

A



Q

和裁士の充実感はどのようなときですか？

まず、反物から1枚の和服を仕立てることができれば、とても感動します。そのためには、日頃からの運針技能の向上や積極性がが必要です。お客様の体型に合わせて作成しますので、御試着した際にフィットしていれば、この上ない喜びになります。

A



Q

どうすれば和裁職人になりますか？キャリアアップはどうすればできますか？

和裁士になるには、特に学歴や資格は問われません。ハローワークなどでの求人情報のほか、人材を育成している職業訓練施設（技術専門学院）などでも情報があります。通常は、職場の先輩から指導を受けますが、職業訓練施設で週に1日、基礎的な技能を身につけることもできます。そして、国家資格（技能士）を取得したり、技能五輪全国大会（23才以下）や技能グランプリなどに出場し、全技連マイスターや厚生労働大臣の表彰を受けたりすることができます。

A

